

集団疎開の記憶

大阪市都島区に住んでいた私は、縁故疎開をする行先もなく、三年生の四月から石川県に集団疎開することになりました。前年

(十九年)の秋からやはり石川県に行っていた姉が、三月の卒業の為に、二月に手や足にひどくしもやけをこしらえて帰宅してしまいました。姉から石川県というところは大変寒い所で、冬の間、雪が家の軒まで積



戦時下の防空頭巾姿

ただ出発の二、三日前に、なんとなく、もしかしたらこの家も見納めになるか

もつていて、洗濯ものが落ちたりするとその上に雪が降って春まで探せなくなるなどの話を聞いていた私は、物珍しさや、友達ともいっしょだということもあって、母や兄弟たちと別れて遠くに行くという感傷ありませんでした。

も知れないという気持ちでがして玄関の上り框から家の中を見ていた記憶があります。宿舎であるお寺に着いて一週間もたつと、家が恋しくてたまらなくなり毎日のように家や、それまで書いたこともない叔父などにも手紙を書いて返事を待ちました。毎日寮母さんが手紙の束を持って部屋に入ってこられるとそこに自分あてのがありますようにと願いました。一週間に二回、田んぼ道を歩いて町の銭湯へ行きましたが、その途中、鉄道の

踏切を渡る時には、この線路をつたって歩いて行ったら大阪へ帰れるなどと友達と話し合ったことを憶えています。

〜中略〜

初めの頃より食事の量が減っていったというはつきりした記憶はありませんが、しらみをわかし出した時期と空腹を感じ出した時期とが重なって思い出されます。空腹にたまりかねて、ハミガキをなめ、オブラートを食べた記憶は、あまり思い出したくないことですが、食べざかりの自分の子供達の食欲を

見ている最近では、あんなことをしたのも当然だったと思うようになりました。しかしあとから思えば、少なかつたとはいえず、この時白のお米のおかゆを食べられたことは恵まれていたといわなければなりません。

そんなある日、何の前ぶれもなく兄が私を連れ帰るために大阪から来てくれました。兄の話では、大阪の家は空襲で焼けて、家族は大阪を離れたので、学校とも連絡をとりにくくし、前年に父を亡くしていた母は、もしもの時に私一

人を残してはと考えて、兄に私を迎えに行つて来てほしいとたのんだとのことでした。



天王寺区三光神社の戦災割れた石柱

翌日、兄と共に大阪へ帰る途中、汽車がどこか大きな駅を通り過ぎる時、駅の構内の線路のそばに黒く焦げてころがっているものをいくつか見つけて、私が「あれはなに」と聞くと、兄は「人や」と教えてくれました。

〜後略〜

記：山田昭子

1979.8.15 発行 千里市民講座「私たちの戦中・戦後」より抜粋

ブラックベリーのジャム

ブラックベリーは米国中部が原産とされるバラ科キイチゴ属のベリー類でイチゴの仲間です。

ブラックベリーは、日当たりがよく風通しのよい場所で育てます。生長力があるので地植えにし、花の後に実がなり日当たりはとても重要です。

種を包んだ小さな粒が沢山集まって一つの赤い実となり、黒々となったら収穫時期です。この黒い実がアントシアニンなどのポリフェノールを沢山含んでいます。

黒い実は非常に高い抗酸化作用を持っており、様々な成人病予防をはじめ老化防止、アンチエイジング(老化・加齢に対抗する)にも期待できます。

ブラックベリーが含む食物繊維量は果物の中では非常に多い部類に入ります。その多くはペクチンと言う水溶性食物繊維です。

強い酸味の成分クエン酸は、体内の酸性物質を減少させる効果や、疲労回復と血をきれいにする働きがあるとされています。

記：大岡津奈子



ブラックベリーの花



ブラックベリーの実



鍋でブラックベリーを煮る



泡立て器を使って種と実を分ける



こしたペーストに砂糖を入れ煮詰める



ビンを熱湯消毒し熱いうちにジャムを入れ蓋をする



昭和20年8月14日の天満付近空襲で亡くなった方の無縁仏の慰霊碑